

定例市長記者会見録

日 時：1月 23 日(金) 午後 1 時 30 分～2 時
場 所：本庁舎 6 階 特別会議室
出席者：一 宮 市 中野市長、福井副市長、山田副市長
報道機関 中日新聞、時事通信社

本日の案件は 5 件です。

1 番目は「生涯の健康増進につなげます～『kencom』と『138 おやこ手帳アプリ』のデータ連携～」についてです。

健康支援アプリ「kencom」の機能追加を行い、母子手帳アプリ「138 おやこ手帳アプリ」とのデータ連携を 1 月 30 日（金）から始めます。

狙いとしては、できるだけご自身で健康を意識していただくことで、病気への備えの意識を高めていただくことです。昨年 2 月からは、マイナポータルに連携させることで、蓄積された医療情報や処方された薬などのデータを「kencom」で確認できるようになっています。

今回、さらに「138 おやこ手帳アプリ」とデータ連携をさせて、「kencom」の機能を増やすことでアプリとしての魅力を高められたらと考えています。子育て中の保護者の方がどの程度いるのかというと、1 月 1 日現在で「kencom」を使っていただいている方が約 1 万 3,800 人で、一宮市の都市 OS 「イチ・デジ」の利用者数もほぼ同数で約 1 万 3,900 人です。一方、「138 おやこ手帳アプリ」の登録者数は約 5,500 人で、このアプリを入れている方が、まず「kencom」と「イチ・デジ」に登録して、「イチ・デジ」を通じて ID 連携することで、「kencom」から「138 おやこ手帳アプリ」に登録したお子さんのデータを閲覧できます。

次のステップとして、将来的には保護者の「kencom」だけでなく、お子さんの「kencom」で、大人になってからも自身の乳幼児健診やワクチン接種履歴などを確認できます。例えば、留学されるときに海外でいろいろ証明書を求められたりすることもあると思うのですが、その際に大いに役立つと思います。「kencom」は 19 歳以上の成年の方が対象になっていますので、そこに引き継いで長く永続的に健康情報を管理して、生涯の健康増進につなげていただきたいと思っています。お子さんの「kencom」に引き継ぐことも視野に入れて進めていますが、まず 1 月 30 日（金）から始めるのは、保護者の方の「138 おやこ手帳アプリ」と「kencom」のデータ連携になります。

2 番目は「期間限定・特別価格で『i-バス 1 日乗車券』のデジタルチケットを販売します」についてです。

i-バスの 1 日乗車券を、期間限定の特別価格でデジタルチケットとして販売します。2025 年 12 月に名鉄百貨店一宮店がイチ＊ビルとしてリニューアルオープンしましたが、その影響もあって一宮駅周辺の駐車場は混雑が続いています。一宮市は、駅の東側で i-ビルの駐

車場や地下駐車場を運営していますが、利用者は前年と比べて 1~2 割程度増えています。12 月や 1 月は、もともと初詣などで混み合う時期ということもあります、満車で車が停められないという状況が発生していました。そこで今回、一宮市民で「イチ・デジ」ID を登録されている方には、i-バス乗り放題の 1 日乗車券を、中学生以上は通常 500 円のところを 100 円に、小学生のお子さんは通常 250 円のところ 50 円にするキャンペーンを行います。一宮市版の MaaS サイト「イッテミーヤ」が、「イチ・デジ」と連携することで利用が増えたらいいなと思っています。またこのキャンペーンをきっかけに公共交通を利用していただくことで、駐車場の混雑緩和につなげられれば、交通問題や環境問題など、一石二鳥ならぬ一石三鳥で進められればということで、今回思い切って i-バス 1 日乗車券 80%オフというキャンペーンを行います。

3 番目は「『おくやみ窓口』（死亡届後のワンストップ手続き）を開設します」についてです。

こうした窓口はそんなに珍しいものではありませんが、後発の一宮市としては、2 点セールスポイントがあります。1 点目は、開設場所を本庁舎、尾西庁舎、木曽川庁舎の 3 カ所と、複数の窓口を作っている点です。名古屋市では区役所がありますので区役所ごとの複数窓口がありますが、それ以外では県内では当市だけになります。

2 点目は、「書かない窓口」を導入する点です。今回、おくやみ窓口としてワンストップサービスで利用予約をしていただきますが、予約の際に、亡くなった方の氏名や住所、生年月日など必要な情報を入力していただきます。そのデータを元に市で必要な申請書の準備をします。申請書には事前に入力していただいたデータの情報を取り込んでおきます。

お亡くなりになると税金や保険年金、福祉の関係などたくさんの書類を書いていただきます。人によって異なりますが、これまで各部署を回り手続きに最低でも 40 分以上、1 時間近くかかることも当たり前という状況でした。今回、「おくやみ窓口」を使っていただくことで、市民の方は手続き時間が 20 分ほどに短くなり、市も事務の効率化ができる、お互いのメリットになるように「おくやみ窓口」を運用できたらいいなと思っています。

まずは 1 日 12 組限定で 2 月 3 日（火）から始めますので、ご利用いただければと思います。

4 番目は「『カムバック採用試験』で職員を採用します」についてです。

カムバック試験では、筆記試験や小論文などをなくして書類選考と個人面接のみにしました。今回、保健師 1 名をカムバック採用として 11 月に募集したところ、1 名の応募があり、晴れて試験に合格し採用の運びとなりました。今回こうして再び良いご縁をいただけたということで、2026 年度からは事務職や技術職など、ほかの職種にも拡充していきたいと思っています。

5 番目は「2025(令和 7)年に 6 事業所の企業立地を支援しました」についてです。

11 年前に私が市長になった時から、財政面でも企業誘致はなかなか厳しい状況でしたので、そうしたところを頑張っていきますということを申し上げてきました。そのため、今どういうふうに進んでいるのかということを、毎年この時期に公表させていただいています。

結論から申し上げますと、順調に進んでおり、2025 年は立地面積でも雇用従業員数も増えました。その分補助金の交付額も増えましたが、これは立地した企業からの固定資産税などを中心にして、大体 4 年程度で元が取れる試算になっています。

2025 年の実績は、製造業 3 件、運輸業 2 件、オフィス 1 件と、どうしても物流が目立ちますが、着実に製造業も一宮市に拠点を移していただいているというのが市の認識です。

もう一つ、新しい大きな流れとしてはオフィスです。事務職の方たちの拠点も一宮市にできる流れを作っていくたいと、2025 年度からオフィスの誘致についても補助金制度を始めました。2025 年度は早速、スタートアップサポート税理士法人にご活用いただきました。また大きな流れとして、補助金の活用はありませんでしたが、かんぽ生命保険中部サービスセンターが一宮市に立地されました。このセンターは、従業員数 500 人ほどの規模で、一宮駅近くの JES 一宮ビルと名鉄百貨店一宮店跡のイチ＊ビルの 2 カ所に分けて入居されました。おかげさまで、一宮駅周辺の容積率緩和措置でマンションはいっぱいできていますが、オフィスビルなどは少ないと感じていました。平日昼間の人が少なく、ベッドタウンのようではぎわいがなく寂しい、という声も聞きましたが、こうした街中へのオフィス誘致で、違ったにぎわいを創出できればと期待しています。

私からの説明は以上です。

質疑応答

■期間限定・特別価格で「i-バス 1 日乗車券」のデジタルチケットを販売します

(記者) チケット販売枚数の上限はありますか?

(職員) ありません。

(市長) i-バスの 1 日乗車券なので、名鉄バスには乗れません。そういう意味では、使える路線が限られるので、その分を思い切って割安な料金を設定しました。

(記者) i-バスは、どの辺りを回っているのですか?

(職員) 一宮駅に向かう 3 コースと北方・尾西周辺を回る一宮駅に接続していない 3 コースの全体で 6 コースです。

(市長) 採算性の高い路線は、名鉄バスが商業路線として運行していただけますが、そうでないところを市が引き受けることとなります。

(記者) 高齢者が乗ることを想定してルートを設定することが多いのですか?

(職員) そうした設定はしていませんが、60 歳代以上の高齢者の方の利用は、6 割ぐらいあります。

(山田副市長) 路線バスが廃線になったところで、もう一度復活させて欲しいということで地元が協議会を立ち上げて、復活したところもあります。

(市長) 6 ルートもあり、100 円（中学生以上）で乗り放題ですから、ぜひこの機会にお試しいただきたいと思います。

(記者) 狹いとしては若い人にも利用してもらいたいということですか？

(市長) そうです。

(記者) チケットの販売を機に、増便もあるのですか？

(市長) 現時点では増便の予定はありません。

(記者) タッチ決済ですか？

(職員) 事前にデジタルチケットを購入し、スマホの画面を運転士に見せて、使っていただく形になります。

(記者) 日にちが掲載されているのですか？

(職員) 使う日をスマホ画面に表示させ、それを運転士が確認します。

■ 「おくやみ窓口」（死亡届後のワンストップ手続き）を開設します

(記者) 従来は、市民課に行ってから、ほかの課を巡っていたのですか？

(市長) そうです。出発は死亡届を出された市民課からです。

(記者) 全部で何カ所ぐらいになるのですか？

(市長) ケースによって異なりますが、場合によっては 4~5 カ所となるケースがあります。

市民課では死亡届後の手続きとして、世帯主変更などの住民異動届や戸籍の関係があります。税の関係では、相続人指定届を出していただかなくてはいけません。75 歳以上の方は、後期高齢者医療保険に必ず加入していますから、葬祭費の支給や支給口座の申請書を出していただきます。さらに介護保険の資格喪失届などを出していただくと 4 カ所です。障害者手帳などをお持ちでしたら障害福祉課で、もう 5 カ所になります。今まででは、そういう形で 3 カ所・4 カ所・5 カ所の部署を回っていただいているというのが現状です。

(記者) 担当課名を教えてもらえますか？

(市長) 市民課、市民税課、保険年金課、介護保険課、障害福祉課です。

(職員) あと、寝たきり高齢者等見舞金の関係がありますので、場合によっては高年福祉課です。

(記者) 他課の職員が必要に応じて市民課に応援に来るのですか？

(職員) 今回は、事前にワンストップでできるよう準備して対応します。ただ場合によっては他課に連絡を取って、担当職員に来ていただくことも想定しています。

(記者) おくやみ窓口で対応する市民課の職員で、保険年金や介護保険などの手続きの対応ができるということですか？

(職員) どうしても各課の要請で、担当職員による直接対応が必要なケースは、各課への案内を促すこともあります。もしも得るかもしれません、基本的にはワンストップで、できる限り対応させていただきます。

(記者) 各課が事前に連携して手続きの対応をすることですか？

(職員) そのように考えています。

(市長) 予約する際に、いろいろな情報を書き込んでいただきますが、その段階で、難しいケースか、シンプルなケースかを事前に判断できます。こうした点からも、実際に来庁した市民の方を長時間お待たせすることが減るのではないかと期待しています。

(記者) 今後は予約しないと死亡届は受け付けないということですか？

(職員) 予約が無くても、直接市民課へ来ていただければ、これまで通り対応します。

(記者) 職員の増員はありますか？

(市長) ございません。

(記者) 開設日が祝日と被った場合はどうなりますか？

(市長) 開庁日に合わせての開設となります。

(記者) 死亡届は多い日で何件ぐらいですか？

(市長) 一宮市では年間 4,000 人から 5,000 人ほどが亡くなっています。1 日では、10 数件となります。

■ 「カムバック採用試験」で職員を採用します

(記者) この採用枠を導入した狙いは何ですか？

(市長) どこの組織も同じだと思いますが人材採用に苦労しています。新規採用でもかつてのような倍率ではなくなってきています。特に土木職などの技術系はそもそも募集がないこともあります。一度辞めて民間企業へ行ったけれど、もう一度、地域のために帰って地元で働きたい方には、気軽に受け入れられるような枠を作っていくたいと思っています。

(記者) 来年度のカムバック採用の時期は？

(市長) 秋に予定しています。どれだけの人数をカムバック枠で採用するかは、新卒採用での補充の状況を見ながら判断します。

(記者) 今回、保健師を採用した背景は？

(市長) 子育て支援に力を入れており、保健師の採用が難しいという声があったので、まずはこの職種でやってみようということで募集しました。

(記者) では、今回が初めてだったということですか？

(市長) 一宮市としては今回初めてです。

(記者) 来年度から本格的に実施するのですか？

(市長) 職種を広げていこうと考えています。